

7泊8日にわたる長期宿泊体験の取り組み

むさしの 武蔵野市立第一小学校

東京都武蔵野市吉祥寺本町4-17-16
電話番号 0422-22-1421
FAX番号 0422-23-0394

全学級数	12学級（特別支援学級なし）
全児童数	358名
全教職員数	18名

活動地域と宿泊先

新潟県魚沼市【受入組織：うおぬま体験交流推進協議会】 → 詳細は102ページ

地 域 名	宿 泊 施 設
新潟県 魚沼市	民宿（本部） その他、周辺民宿（6軒）（7泊）

活動のねらい



自然とのふれ合いを通して、物質的な豊かさの中で失われてきている自然と人間との共生、環境保全の必要性、自然に対する畏敬の念などについて体験し、自然を大切にしようとする態度を育てる。さらに、地域の人々との交流を通じて、信頼関係と人間関係を深め、感謝の念を育てる。魚沼市の環境を生かし、魚沼の方々との関わりを大切にしながら、現地講師を活用し、次の課題について取り組む。5年生の社会科での米作り（農業）学習の一環でもあり、「バケツ稲」との比較学習にも位置付けている。

(1) おいしい米づくり

○おいしい米を作る「おいしい水」

- ・スキー場山頂から俯瞰した土地のつくりの理解
- ・名水めぐりによる水質の比較

○おいしい水を生む「山」のはたらき

- ・ブナ林のはたらきと雪

○おいしい米を育てる土地

- ・里山散策と流れる水（川）のはたらき

○米作りの実際と食文化

- ・稲作の手順と米の管理
- ・収穫／脱穀／精米の今と昔
- ・郷土食体験

(2) 農村の生活と人々の知恵・努力

- ・わら細工
- ・林業体験（伐採・炭焼き）
- ・生活路の確保（中山隧道見学と講話）

(3) 水のつながりと自然の恵み

- ・「山—川—海」の水のつながりとそのはたらき
- ・日本海から遡上する鮭（築場見学）と育てる漁業の在り方（採卵縫場見学）

対象学年・児童数	5年生・48名
実施時期	平成21年10月7日～14日



活動地域の選定で決め手となったポイント

- (1) 本校からの移動時間が休憩も含めて4時間程度であり、移動に時間をとられず体験活動が計画できること。
- (2) 受入れ窓口が一つであり、連絡調整が付けやすいこと。(現地でその場の調整が必要なとき、非常に重要である)
- (3) 民宿街や各体験場所がコンパクトにまとまっており、移動や指導管理しやすいこと。(民宿から体験場所まで徒歩約10分以内)
- (4) 現地の移動手段として、マイクロバスがチャーターでき、大型バスを期間中貸し切らずに済むこと。
- (5) 「魚沼産こしひかり」という米どころでの活動が展開できることで、「おいしい米作り」の謎に迫る学習活動が展開でき、他教科(理科・社会・総合的な学習の時間(環境))との関連性をもたせることができること。

活動の成果

(1) 米づくりについての理解

新潟県魚沼市では、どうしておいしいお米がとれるのかという疑問に対して、山・森・雪・川という4つの環境が互に関連していることが分かり、環境保全への理解が深まった。また土地の人々が恵みを受けてきた里山の散策を通して、山の植生の豊かさや生活への取り入れ方が分かった。稲刈りなどの体験では、人力と機械による作業効率の変化や先人の知恵を学ぶことができた。これらの活動を通して、知識と経験が関連付けられるようになり帰校後の発表に成果が反映された。

(2) 人々の知恵・努力

わら細工体験・郷土食体験を通して、わらの有効活用やその結い方、食材をいかに日持ちさせるかなど生活の中に生きる知恵を宿の方から学ぶことができ、土地柄を生かした生活の工夫を知ることができ、ものや食に対する見方の変化があった。

(3) 宿での共同生活

児童にとって魚沼の自然との触れ合いとともに関心を示していたのが、友だちとの1週間に及ぶ共同生活であった。セカンドスクールが始まると、初めの頃はホームシックや班でのトラブルが各宿で見られたが、4日目から5日目くらいから、民宿のお父さんやお母さんとの触れ合いの中で次第に男女が仲良くなり、協力し合う姿が見られるようになった。セカンドスクールから帰った後も、友だちの意外な面やよいところを新しく発見したこと、楽しく過ごせたことを自慢げに話す様子が多く見られた。また、宿の方々からはじめましての会やありがとうの会、語らいの時間を楽しく過ごさせてもらったという話を聞くことができた。

取り組み前の課題

- (1) 児童にとっては、**長期宿泊体験**となるので児童・保護者ともに「子供がちゃんとやっ
ていけるか?」「グループはどのように決めるのか?」などの**不安**を感じていたり、
保護者は具体的な持ち物の準備について情報を知りたがっていたりした。
- (2) 農村での生活体験としては、民宿の方との農業体験などの活動があるが、地域交流と
いう点では地元の小学生との交流がカントリーウォークにとどまってしまっており、
人的な交流の機会を広げていく必要がある。
- (3) 児童の個別の関心に基づいた「課題別学習」を設定したが、事前学習での課題追究が
多くの内容に広がりすぎたため、**現地の見学内容や体験活動の調整が煩雑**なってし
まった。

体験活動の実施体制

学校の指導（支援）体制

- (1) セカンドスクールの推進体制の整備と事前視察の実施
実施の前年7月に実地踏査を行い、活動内容の概要を提案（前年度5年担当及び、
宿泊行事委員）し全職員で検討した。さらに、次年度につなげるため、**担当学年以外
の教職員による実地踏査**を行い、体験活動場所と活動内容の**共通理解**を
図った。
- (2) 引率体制の整備
5月初旬に再度現地の実地踏査を実施し、5年担任が中心となって現地宿泊施設代
表者と魚沼市体験活動教室担当者との連絡協議会を行った。**実施の際には、担任を含
めた教職員が交代で現地指導**を行った。また、現地指導に当たる教員には、後補充の
講師を確保した。引率は、**児童へのきめの細かい配慮や指導ができるという観点から
校長および担任が全日程参加した。その他の引率教員は2名ずつ交代し、延べ4名の
教員が引率にあたった。**
- (3) 学年を見通した系統的な宿泊学習の位置づけ
4年生からの宿泊学習における活動の関連性、テーマ性が保たれるよう**職員会議や
担当学年による打合せで情報を共有し総合的な検討**を行った。結果、4年生のプレセ
カンドスクールでは、「海」をテーマに、漁業や海洋生物の観察、ビーチコーミング、
郷土の特色を生かした体験活動などを位置付け、5年生では「山」をテーマに農業林
業体験、川をめぐる水や米作りの講話などを取り入れ、6年生では「日本の歴史・自
然」をテーマに日光東照宮や戦場ヶ原などの見学・散策として位置付けている。

課題に対する解決策

- (1) 保護者説明会の場で、現地の方に来て説明してもらったり、実地踏査段階での写真を紹介し土地柄を紹介してもらったりする機会を作った。また、グルーピングの方法も児童の希望を聞きながら行った。持ち物については、その用途や持っていく趣旨を伝えたり、見本を用意したりした。
- (2) 現地の小学校との交流機会を計画に挙げ、その実現に向けて前年度から受入窓口を通じて交渉した。
- (3) 昨年度の課題別学習の実績をもとに課題別体験・見学のユニット（教員から、現地で体験や見学が可能なメニューを提示）を作り、児童がそれを選択して学習を進めるという運営上の工夫を行う。→ 教員の負担の減少につながる。

配慮事項等（安全確保のための改善点、衛生上の留意点等）

安全確保

- (1) 実地踏査において活動場所をすべて確認し、診療所及び総合病院などの医療機関への診察依頼を直接出向いて行った。
- (2) 宿泊施設の方々との打ち合わせを行い、前年度に課題となった点を聞き取ったり、生活上のルールで不明確な点を出してもらったりしながら学校での事前指導に反映させた。
- (3) ぜんそくやアレルギーのある児童に対しては、マスクの着用を指示した。刃物を使う場面では、軍手などの保護具の着用をその都度指示した。また処方薬を持参している児童は、看護師の前で服用するように義務付け、服用時間や症状などを管理した。
- (4) けが、病気が発生した場合には、武蔵野市貸与の携帯電話（本部用1機）を活用した連絡経路を事前に確認し、引率職員や生活指導員に周知した。

衛生上の留意点

- (1) 保護者説明会を開き活動内容や持ち物の説明を行った。特に、ぜんそくがある児童に対しては、マスクの持参と着用を保護者の側からも指示してもらうよう依頼した。また、活動予定表や食事メニューを配布し、アレルギーの調査を行った。該当があった場には、現地受入窓口の担当者と連絡をとり、宿に代替メニューを依頼した。
- (2) 出発前に保護者からの健康調査票をもとに、養護教諭と看護師との打合せをもった。
- (3) 下着を除く衣類については、洗濯の時間を設け、きれいな衣類が残るよう洗濯の時間を設定した。
- (4) 一日の活動が終わり宿に帰った時には、指導員を通して手洗い、うがいを徹底させた。毎日夕方には、看護師による健康観察を宿ごとに行い、児童本人や指導員から健康状態を聞き取った。

感想

保護者からの声

- (1) セカンドスクール報告会では、自分たちがやってきた活動を分かりやすく説明する姿に、それぞれが中身の濃い8日間を過ごしていたことを改めて感じさせられました。また、民宿の方がそばに寄ってきて「上手にできたねえ。」と、まるで本当の孫に声をかけるような姿に目頭が熱くなりました。
- (2) セカンドスクールでは、普段できない体験をたくさんでき、いろいろと学べてとても良かったと思います。これから生きていく上でいい勉強になったと思います。この経験をこの先どんなふうに生かせるか、楽しみにになりました。
- (3) 途中ホームシックになったようでしたが、民宿のお父さんお母さんや、指導員の先生、友だちのおかげで乗り切ることができたようです。今では、また行きたいと言っています。



児童からの声

- (1) 課題別学習では、雪国の暮らしについて学習しました。東京の家とは全く違う家の形で興味をもちました。みんなでちがう課題をもってやる学習は、とても面白くていろいろな場面で生かしたいです。
- (2) 天体観測では、天の川を見ました。一部だったけれど、星が川のように流れていて宇宙の広がりを感じました。
- (3) 私は、手作業での米の脱穀・精米を体験して、昔の人は大変だったんだなぁと思いました。
- (4) 僕は伐採体験を通して、木を切ることが他の木にも日光を当てるために必要なことを初めて知りました。



実施までの経過

- ・平成7年より武蔵野市では長期宿泊体験学習「セカンドスクール」を実施
- ・平成18年度まで 長野県飯山市で実施
実施場所の変更の検討
理由：受入民宿の廃業などによる
 - 4月：校長を中心に宿泊を伴う農業体験を受け入れた実績のある地域を選定
新潟・千葉・神奈川で候補を挙げるが、米どころであることや移動時間及び体験施設・設備を理由に実施場所を新潟県魚沼市に決定
 - 5月：校長が現地を視察し活動のフィールドや費用の打合せを行う
 - 6月：校長及び教務主幹、5年担任が実地踏査を行い計画の作成に入る
 - 8月：平成19年度実施分 概算要求を教育委員会に提出
 - 3月：現地民宿組合との打ち合わせを行う
- ・平成19年度 6月及び8月：校長及び教務主幹、5年担任が実地踏査を行う

活 動 内 容

事前指導

(1) 米の栽培と米作りの盛んな地域の特徴に関する事前調査

バケツ稲と育て方の副読本を活用し、土づくりや水の管理、病気や害虫対策について事前学習を栽培と観察から行った。学校で経験しておくことで、魚沼での米作りとの比較や農家の方々の工夫について質問事項をもつことができた。

(2) 自己の関心に基づいた課題別学習の設定

日程の中で課題別学習の時間を設定し、個人の学習課題に基づいた活動が展開できるようにした。現地で学びたい内容を、①米 ②生き物 ③水 ④雪国の暮らし ⑤植物 ⑥人と暮らし の6テーマに分け、見学のポイントや質問事項を明らかにしておいた。

(3) 宿泊先への自己紹介カードの作成と送付、交流会の設定

宿泊する宿に対して自己紹介カードを送ったり、保護者説明会の折に魚沼市から来校してもらったりした。事前に、名前と顔を覚えられたのは、子供たちが安心して1週間の生活をスタートさせることにつながった。

(4) 宿泊グループごとの打合せの時間の確保

学年で係ごとに打合せを行い、仕事内容や班員に対して約束ごとを明確にしたのち、グループごとにスローガンや生活・学習についての約束事を設定させ共通理解を図らせた。

日 程

月日	行 程
1 日 目 (10 月 7 日)	7:30 出発式 12:00 昼食 13:00 開校式 14:00 名水めぐり 15:30 目黒邸見学 16:00 昔話を聞く会 18:00 夕食 19:00 はじめましての会 20:30 学習・生活の記録 21:30 消灯
2 日 目 (10 月 8 日)	6:30 起床 7:30 朝食 9:30 郷土食体験 12:00 昼食 13:30 農業体験① わら細工作り (民宿ごとで鍋敷き作り) 18:00 夕食 19:00 手紙書き 19:30 語らいの時間(民宿ごと) 20:00 学習・生活の記録 21:30 消灯



わら細工体験

3 日 目 (10月9日)	6:30 起床 7:30 朝食 9:00 中山隧道見学 10:30 山古志村見学 12:00 昼食(もちつき) 13:30 課題別学習① 18:00 夕食 19:30 語らいの時間 20:00 学習・生活の記録 21:30 消灯	 もちつき体験
4 日 目 (10月10日)	6:30 起床 7:30 朝食 9:00 農業体験② 稲刈り・はざがけ 12:00 昼食 13:30 農業体験③ 脱穀・もみすり・精米(昔と今の比較) 18:00 夕食 19:30 語らいの時間 20:00 学習・生活の記録 21:30 消灯	 脱穀体験
5 日 目 (10月11日)	6:30 起床 7:30 朝食 9:00 カントリーウォーク 12:00 ブナ林散策 13:00 昼食 15:00 宿別体験 17:30 夕食 19:00 天体観測 21:00 学習・生活の記録 21:30 消灯	 課題別生き物採集
6 日 目 (10月12日)	6:30 起床 7:30 朝食 9:00 鮭の一括採捕場見学 10:30 川の学習 11:00 農業公社見学 12:00 昼食 13:30 課題別学習② 18:00 夕食 19:00 手紙書き 19:30 語らいの時間 20:00 学習・生活の記録 21:30 消灯	 課題別生き物採集

7 日 目 (10 月 13 日)	6:30	起床	
	7:30	朝食	
	9:00	林業体験 (炭焼き、雪室見学、薪わり)	
	12:00	昼食	
	13:00	林業体験(伐採)	
	15:30	セカンドのまとめ	
	18:00	夕食	
	19:00	ありがとうの会	
	19:30	語らいの時間	
	20:30	学習・生活の記録	
	21:30	消灯	
8 日 目 (10 月 14 日)	6:30	起床	
	7:30	朝食	
	8:00	掃除	
	10:30	閉校式	
	12:00	昼食	
	15:30	学校到着	
	16:00	解散式	

暮らしの工夫(雪室)

炭焼き体験

事後指導

(1) セカンドスクールを振り返る作文の作成

国語の時間を活用し学んだことを文章にまとめ、仲間同士で交流をする機会を作った。振り返りと言語化の作業によって報告会にも生かすことができた。

(2) 集会や学校公開におけるセカンドスクール報告会の実施

在校生や保護者に対して自分が体験し学んだことを発表する機会を設定した。自分の経験を他者に伝える場面をつくることで発表の工夫が生まれたり、自分は何を学んだことを振り返えったりする姿が見られた。

(3) (武蔵野第) 一小米と魚沼米の比較

バケツ稲の苗を刈り取り、稲穂のおよその数を数えたり、手作業による脱穀・精米の活動を行ったりした。「食べられるお米」にするまでの苦労や難しさを年間の作業を通して感じる事ができた。(手間がかかっている苦労、昔と今の作業の違い、技術の進歩)

(4) お世話になった方々への御礼の手紙の作成

宿泊でお世話になった宿の方々への礼状を作成したことで、帰校後の交流にもつながりをもたせることができた。その中で、自分の成長や変化、宿の方から学んだことについて触れさせるようにした。

2 校合同実施による農山村体験の取り組み

千葉県立生おい はま にし浜西小学校

千葉県千葉市中央区塩田町 316-1

電話番号 043-264-0013

FAX番号 043-268-5849

全学級数	13学級
全児童数	383名
全教職員数	22名

活動地域と宿泊先

長野県伊那市長谷市野瀬

【受入組織：伊那市観光協会長谷支部「農山村留学長谷地区受入の会」】 → 詳細は104ページ

地 域 名	宿 泊 施 設
伊那市長谷地区	民営施設
〃	鹿嶺高原キャンプ場
〃	民泊（18軒）（1泊）

活動のねらい



- (1) 大自然のすばらしさを肌で感じ取り、地域による違いに気付き、長野と千葉のよさを発見する。
- (2) めぐり合った人々とのかかわりを大切に、他人を思いやる気持ちや感謝の心をはぐくみ、一人一人の個性を発揮する。
- (3) 親元を離れ、仲間との集団生活やホームステイなどを通して、お互いに気を配り、協力し合って生活することを通して自主性・創造性を伸ばす。

取り組み前の課題

- (1) 合同実施校（千葉市立寒川小学校）との事前調整
- (2) 児童の情報チェック
- (3) 児童の健康状態の情報提供

対象学年・児童数	6年生・70名
実施時期	平成21年8月21日（金）～8月25日（火）

活動地域の選定で決め手となったポイント



- (1) 受入地域の体制が整備されており、体験活動やホームステイ先との調整等が十分に行える機能も備え、安全対策がしっかりと採られている点。（窓口が一元化されているメリット）
- (2) 本校からの問い合わせ依頼に対し、迅速かつ適切に対応されている点。（担当者が不在でも伊那市の受入体制が整備されているため問題がない）
- (3) 自然環境が素晴らしいこと。
- (4) 地元の方々がたいへん協力的で理解があり、子どもたちを優しく温かく迎えてくださる点。

活動の成果

児童や教師の感想に加え、「自分にまかされた仕事は、しっかりできる」や「新しい友達を作ることができる」など25項目について、5段階の自己評価を事前と事後に行い、その変化をまとめた。

- (1) 事前調査の平均値が4.02とかなり高く、それ以上の向上を望むことが難しいが、「朝、自分で起きる」（事後の値－事前の値 0.24）「自分に任された仕事はしっかりできる」（同 0.15）「自然の中の活動は気持ちがいい」（同 0.13）「新しい友達を作る」（同 0.11）の事後調査の平均値が向上した。これらは、長野県長谷地域の豊かな自然の中で、違う学校の友だちと様々な活動を通して得られた成果と考えることができる。
- (2) 向上が認められなかった項目は、「遊んでいる仲間に自分から加わろうとする」「できないことがあると、できるまで頑張る」であり、人や物に積極的に関わるのが不足していたと考えられる。
- (3) 生浜西小学校と寒川小学校の2校合同実施であることから、1校のみの固定された人間関係を脱し、新たな人間関係の構築ができています。

課題に対する解決策

- (1) ふだんはほとんど交流がない2校での合同実施だったので、結団式を充実させた。自作の名刺交換会をしたり、仲間作りゲームをしたりして、児童の心の結びつきが深まるよう配慮した。また、両校の教職員が事前に緊密に連絡を取り合い、ひとつの学校として事業に参加できるよう準備を心がけた。
- (2) 児童には実施1週間前から「健康チェック」をさせた。その結果を健康カードに記入し、体調の変化に留意した。
- (3) 伊那市長谷支所の担当者と連絡を取り合い、児童の健康状態に関する情報や保護者からの依頼事項について、事前に情報提供をした。このことで、保護者も安心してホームステイ先に送り出すことができ、児童も自分のことがわかってきているという安心感につながった。

体験活動の実施体制

学校の指導（支援）体制

学校を挙げて実施する際の体制整備について

「上伊那地域農山村留学実行委員会」として千葉市立寒川小学校と共同で実施する。

（構成員：生浜西小学校と寒川小学校から教員各 7 名、教育委員会、

グループティーチャー（新任教員） 合計約30名）

- ・ 児童の活動に支障のないような引率教員の確保
- ・ 養護教諭の引率
- ・ 教務主任を中心においた長野と千葉との連絡体制
- ・ 学校評議員及び P T A 役員との連携による意見聴取
- ・ 長野と千葉との連絡体制（千葉市教育委員会の役割）

※「上伊那地域農山村留学実行委員会」の構成員

生浜西小学校と寒川小学校の教員各 7 名、グループティーチャー、教育委員会

※教職員の初任者研修の一環として、「上伊那地域農山村留学」に20名の新任教員が同行している。

配慮事項等（安全確保のための改善点、衛生上の留意点等）

安全確保

- (1) 合同実施校の寒川小学校と実行委員会を組織し、安全確保に向けた事前打合せを繰り返し実施した。
- (2) 事前下見を 2 回行い、活動場所の事前点検を実施した。（特にフィールドワークで水遊びを行う川の周辺を、前日と当日も確認を行った。）
- (3) 緊急対応時の連絡系統を事前に十分確認した。

衛生上の留意点

- (1) 食物アレルギー等について事前調査をし、食事のメニュー等の事前調整を実施した。
- (2) 食中毒を配慮した調理実習の事前指導を実施した。また、調理前における手洗いを徹底指導した。
- (3) 新型インフルエンザへの対応について事前に協議し、対応策を徹底した。
- (4) 弁当類については、事前に腐食の点検を励行し、残飯処理を徹底した。

感想

保護者からの声

- (1) 行く前は少し不安(担任が離れてしまう、トイレの問題等)もありましたが、充実した貴重な時間を過ごせたようで、帰って来るなり、たくさんのお土産話をしてくれました。疲れた顔の奥に何かをやり遂げたような満足感を感じました。
- (2) 長谷の方々が、子どもたちをあたたかく迎えてくださったことに感謝しています。家に帰ってから、ステイ先の方々に野菜を送っていただきました。娘も私もびっくりしましたが、改めてステイ先の方々の子どもたちに対する熱い思いに感激しました。



児童からの声

- (1) 千葉市とは景色がまるで違う長谷での5日間は夢のようでした。長谷の町を歩き、いろいろな方に声をかけていただき、うれしかったです。ホストファミリーの方々はとても親切にしてくれました。流しそうめんや、農作物の収穫の手伝い、川遊びなど千葉ではできない体験をすることができました。
- (2) あたたかく迎えてくれたホームステイの家の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。川で泳いだり、陶芸をしたり、とても楽しかったです。長谷のよさをたくさん感じるすることができました。
- (3) ほかの小学校の友だちとなかよくなることができました。はじめは少し心配でしたが、すぐに友だちになることができ、うれしかったです。たくさんの方々ができた、楽しさいっぱいの農山村留学でした。



実施までの経過

- | | |
|------------|--|
| 平成20年 8月 | 「平成21年度千葉市農山村留学推進事業」参加校のひとつとして、
「農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」に応募することを決定。 |
| 10月 | 千葉市教育委員会と協議のうえ、候補地を「長野県伊那市長谷地区」とすることに決定。 |
| 平成21年 2～3月 | 事業計画書を立案 |
| 4月 | 長野県農山村留学推進事業に参加する全小学校との合同全体会
保護者説明会を開催し、本事業の概要を説明 |
| 6月 | 校長、教務主任、6学年主任等で、長谷支所担当者およびホームステイ先に挨拶し、体験活動予定地域の事前調査を実施。
第2回保護者説明会 |
| 7月 | 2校合同結団式（生浜西小学校、寒川小学校） |
| 8月 | 事前学習会 |

活動内容

事前指導

総合的な学習の時間を使って、留学先の自然や文化を調べたり、自分のめあてを決めたりする。また、特別活動でグループ分け等を行う。

- (1) 6月 教室にて、説明会 児童のめあてづくり 班編成、役割分担
- (2) 6月下旬 教室にて、総合的な学習の時間で「伊那市長谷」について調べる。
ホームステイ先に手紙を書く。
- (3) 7月 生浜西小体育館にて、寒川小学校と合同で結団式 自己紹介
仲間づくりゲーム めあての確認 フィールドワークのコースを確認

日程

月日	行	程
1日目 (8月21日)	6:10 学校集合、出発式 6:30 学校出発 12:00 昼食 14:00 伊那市長谷入野谷着、入村式 15:30 バスで鹿嶺高原へ移動 16:30 鹿嶺高原到着 18:00 夕食 19:00 星を観る会 21:30 リーダー会議 22:00 就寝・消灯	 ホームステイ対面式
2日目 (8月22日)	6:30 起床 7:30 朝食 8:00 荷物整理 8:30 バスで長谷に移動 10:00 長谷総合支所よりフィールドワーク 12:45 昼食 15:00 ホームステイ先へ 18:00 夕食 19:00 入浴 22:00 就寝・消灯	 フィールドワーク (秋葉街道)

3 日 目 (8 月 23 日)	6:30 起床 7:30 朝食 9:00 ホームステイ先でそれぞれ活動 15:15 入野谷へ児童戻る 16:00 自由時間 18:00 夕食 19:00 民話を聞く会 20:30 リーダー会議 22:00 就寝・消灯	 長谷地区(民話を聞く会)
4 日 目 (8 月 24 日)	6:30 起床 7:30 朝食 9:00 バスで長谷小学校へ 10:20 長谷小学校との交流会 ※新型インフルエンザ 対応のため中止 12:00 一緒に昼食 13:00 グループごとの交流会 16:45 入野谷着 18:00 夕食 19:00 イベントタイム 20:00 入浴 22:00 就寝・消灯	 地元小学校との交流 (川遊び)(イメージ)  地元小学校との交流 (どんざ節)(イメージ)
5 日 目 (8 月 25 日)	6:30 起床 7:30 朝食 9:00 部屋清掃・荷物整理 9:40 退村式 10:30 入野谷発 16:30 学校到着、到着式 16:40 解散	

事後指導

国語及び総合的な学習の時間を利用して、お世話になった人々へのお礼状を書いたり、留学を通して学んだことを新聞等に表したりする。保護者への発表会を設け、自分の成長したことを話す機会とする。

- (1) 9月上旬 ホストファミリーへお礼の手紙を書く
- (2) 9月中旬 農山村留学の思い出を新聞(作文)に書く
- (3) 11月 学習発表会にて、農山村留学の体験発表を行う